2024年05月20日

研究分野			研究内容のキーワード			
と粧品科学,製剤科学,界面コロイド科学		 乳化・可溶化、	化、液晶、リポソーム・ベシクル、化粧品、洗浄剤			
学位			最終学歴			
尊士 (工学)		横浜国立大学	大学院工学研究科物質工学専攻修士課程修了			
	教育上の能力	に関する事項				
	年月		概要			
教育方法の実践例	17	<del>3 H</del>	170.5			
作成した教科書、教材						
1.界面と界面活性剤 -基礎から応用まで- 日本油化			2005年4月1日(第1版)、2009年3月31日(第2版1			
学会 編			刷)、2013年6月1日(2刷)、2020年10月30日(3刷)			
			界面活性剤の基礎と応用に関する大学院および学会セ			
			ミナー向けの教材の編集委員(第2版1刷~3刷)および			
			執筆(第1版、第2版)を行った。編集は共同編集、執			
			筆は共著。			
実務の経験を有する者についての特記事項			T			
1.2016年度 特許庁審査官研修 講師	2016年7月13日		企業の開発現場の視察を希望する特許庁審査官に対し			
			講演と意見交換を行った。「資生堂の製剤技術 ~微			
9 바늘나 고마99년 다 사 웨나//rrr lb 시 = #kr	9011777799		細乳化と巨大乳化~」			
2. 特許庁 平成23年度先端技術研修会 講師	2011年7月28日		特許庁審査官に対し、複雑化する最先端の製剤技術に			
			ついて講演を行った。「化粧品・洗浄製品の高機能化 を目指したエマルジョン技術の進化」			
9 9010年中 日本公理上公理修 港區	2010年11日25日	7				
3.2010年度 日本弁理士会研修 講師	2010年11月25	1	化粧品領域へ業務範囲を拡大することを希望する弁理   士に対して講演を行った。「スキンケア製品の製剤技			
			工に対して調偶を行うた。「スキンケケ製品の製剤技術」			
その他			T GIV			
1. 第1回 東京理科大学界面科学研究部門 産学連携	セ 2020年12月		「界面活性剤の会合体を活用した高性能化粧品開発」			
ミナー 第2部 企業からの先端研究紹介 講師						
2. 信州大学工学部コロイド&界面科学センター 第15	2019年7月12日		「相平衡図を用いた化粧品の価値づくり」			
回化粧品講座 美と健康を科学する! 講師						
3. 千葉科学大学 化粧品企業特論 特別講義 講師	2015年10月8日		「スキンケア化粧品の製剤技術」			
4. 第19回 千葉科学大学 コスメティックサイエンス	. 2014年4月24日		「化粧品のαゲル」			
シンポジウム α-ゲルについて考える会 講師						
5. 第14回 千葉科学大学 コスメティックサイエンス	. 2014年2月28日		「バイコンティニュアスキュービック液晶を形成する			
シンポジウム 温故知新で乳化について考える会			界面活性剤による超高内相W/0乳化の調製」			
講師						
6. お茶の水女子大学 CT445 知の市場(化粧品の科	2013年11月6日		「化粧品のコロイド科学と界面科学」			
学) 講師						
事項	職務上の実績		Attr and			
資格、免許	年月	111	概要			
73.H. 70H1						
特許等						
1. 洗浄剤組成物	2017年9月25日	出願日	特許第7041067号、(登録日:2022年3月14日)			
			渡辺 啓、目野 高嗣			
2. 高内水相油中水型乳化組成物	2012年12月14日	3	特許第5269243号、(2013年5月17日)			
			松藤 陽子、渡辺 啓			
3. 油中水型乳化化粧料	2012年7月10日		特許第5690779号、(2015年2月6日)			
N. I. I. States II. II ship in	001-1-0		北島 正樹、伊部 絢子、渡辺 啓			
4. 油中水型乳化化粧料	2011年3月30日		特許第5117591号、(2012年10月26日)			
- No. 1. 1. 101 80 11. 11. 10-100	001170 000		北島 正樹、伊部 絢子、渡辺 啓、大村 孝之			
5. 油中水型乳化化粧料	2011年3月30日		特許第5547123号、(2014年5月23日)			
で 法仏伊 高橋 か しがっ カッカ ロンマ マロコ テル チョウ し	90115-9		伊部 絢子、北島 正樹、渡辺 啓			
6. 液状組成物およびこれを用いた透明乃至半透明な水	、  2011年3月28日		特許第5881139号、(2016年2月12日) 			
性組成物 7 ベシクル今有組成物	2011年3日25日		勅使河原   喬史、渡辺   啓、新藤   圭介			

2011年3月25日

7. ベシクル含有組成物

特許第4980474号、(2012年4月27日)

職務上の実績に関する事項								
事項	年月日	概要						
2 特許等								
o the header	0010 1-5	西田 美晴、渡辺 啓、松下 裕史						
8. 化粧料	2010年5月19日	特許第5414064号、(2013年11月22日)						
9. 化粧料	2010年5月19日	杉山 由紀、渡辺 啓、西島 義人   特許第5413977号、(2013年11月22日)						
<b>ታ. 1</b>	2010年3月13日	杉山 由紀、渡辺 啓、西島 義人						
   10.油中水型乳化組成物	2010年3月17日	特許第4629799号、(2010年11月19日)						
- 1A 1 4 233 B. 2//(A		伊部 絢子、渡辺 啓、大村 孝之						
11. 化粧料	2009年12月28日	特許第5348784号、(2013年8月30日)						
		佐藤 美奈子、勅使河原 喬史、渡辺 啓						
12.油中水型乳化組成物	2009年3月27日	特許第5552248号、(2014年5月30日)						
		伊部 絢子、渡辺 啓、大村 孝之						
13. ゲル組成物及び化粧料	2008年7月24日	特許第5770823号、(2015年7月3日)						
		荒木 秀文、渡辺 啓、中間 康成、日根野 照彦、						
   14.ベシクル含有組成物及びその製造方法	2008年5月15日	飯村 智浩、大川 直   特許第5492555号、(2014年3月7日)						
14.ペングル各有組成物及びでの製造方法	2006年3月13日	渡辺 啓、荒木 秀文、永禮 由布子、中間 康成、						
		石野 弘和						
15. 洗浄料	2008年2月5日	特許第5305677号、(2013年7月5日)						
3.750	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	荒木 秀文、木村 友彦、中間 康成、渡辺 啓、大						
		川 直、飯村 智浩						
16. 増粘剤組成物およびその製造方法	2007年12月18日	特許第5258279号、(2013年5月2日)						
		永禮 由布子、渡辺 啓、坂本 一民						
17. ミセルーシリカ複合カプセル含有水系透明組成物の	2007年8月31日	特許第5351398号、(2013年8月30日)						
製造方法、及びエマルションーシリカ複合カプセル		永禮 由布子、渡辺 啓、坂本 一民、高橋 俊						
含有透明組成物の製造方法	2007/75 11 22 11							
18.皮膚外用剤	2007年5月22日	特許第5461010号、(2014年1月24日) 						
		宮原 令二、樋渡 幸三、渡辺 啓、岡 隆史、円山   圭一、横澤 慶一						
19. 化粧料	2007年4月23日	特許第5013943号、(2012年6月15日)						
		松尾 玲、安達 謙太郎、渡辺 啓						
20. 透明ゲル状化粧料	2006年9月11日	特許第5172119号、(2013年1月11日)						
		石川 由布子、渡辺 啓、坂本 一民、高橋 俊、日						
		根野 照彦						
21. クリーム組成物	2006年8月11日	特許第4968774号、(2012年4月13日)						
		勅使河原 喬史、渡辺 啓、山口 和弘						
22. 固体ゲル状外用剤の製造方法	2006年8月11日	特許第5238149号、(2013年4月5日)						
		石川 由布子、坂本 一民、世喜 利彦、矢島 勲、 高橋 俊、渡辺 啓						
23. ベシクル含有組成物及びその製造方法	2006年7月25日	同情   後、仮2   台     特許第5121179号、(2012年11月2日)						
20. (2) 77 日刊組成协及0 (2) 农运力位	2000-171201	渡辺 啓、中間 康成、ハインツ、ホフマン、ユン、						
		ヤン、マーカス、ドレクスラー、イエシャヤフ、タル						
		モン、エレナ、マーカスキー						
24. 洗浄剤組成物	2006年5月31日	特許第4831609号、(2011年9月30日)						
		鈴木 由紀、渡辺 啓、松尾 玲						
25. 洗浄剤組成物	2005年12月9日	特許第4831603号、(2011年9月30日)						
9C 34-34 4040 +P #/m	9005 10 10 10	鈴木 由紀、渡辺 啓、松尾 玲 *** *** *** *** *** *** *** *** ***						
26. 洗浄剤組成物	2005年12月9日	特許第4911752号、 (2012年1月27日)						
】 27.油中水型乳化組成物	2005年12月7日	鈴木 由紀、渡辺 啓、松尾 玲  特許第4681439号、(2011年2月10日)						
21.1四下小坐孔山地风彻	7000-H17/31H	渡辺 啓、松村 充敏、嵜口 孝行						
28. 洗浄剤組成物	2005年9月15日	特許第4911749号、(2012年1月27日)						
		鈴木 由紀、渡辺 啓、松尾 玲						
29. 洗净剤組成物	2005年9月15日	特許第4827236号、(2011年9月22日)						
		鈴木 由紀、渡辺 啓、松尾 玲						
30. 液晶分散組成物およびその製造方法	2005年8月10日	特許第4757565号、(2011年6月10日)						
		勅使河原 喬史、渡辺 啓、嵜口 孝行						
31. 一相マイクロエマルション組成物、及びO/W超微	2005年7月7日	特許第4643377号、(2010年12月10日)						
細エマルション外用剤の製造方法	9005 759 11 10 11	宮原 令二、樋渡 幸三、渡辺 啓、石渡 正昭						
32. 油性洗浄料組成物	2005年2月16日	特許第4746889号、(2011年5月20日) 松尾 A H L 松甘 海江 政						
		松尾 玲、井上 裕基、渡辺 啓						

職務上の実績に関する事項								
事項	年月日	概要						
2 特許等								
33. 油性洗浄料	2004年3月22日	特許第4429053号、(2009年12月25日)						
		井上 裕基、松尾 玲、渡辺 啓						
34. 油性クレンジング組成物	2004年1月9日	特許第4757446号、(2011年6月10日)						
12/74/74	7,7	渡辺 啓、松尾 玲、井上 裕基						
35.ゲル状組成物およびそれを用いたクリーム組成物	2003年10月31日	特許第4731109号、(2011年4月28日)						
oo. // // White All All All All All All All All All Al	2000   10/1011	渡辺 啓、井上 東彦、木村 朋子						
】 36. 水中油型乳化組成物	2003年10月31日	特許第4152301号、(2008年7月11日)						
50. 水中価至孔化組成物	2003年10月31日	井上 東彦、渡辺 啓						
27 流目八點如己物	2002年10日21日							
37. 液晶分散組成物	2003年10月31日	特許第4093480号、(2008年3月14日)						
		勅使河原 喬史、渡辺 啓						
38. 洗浄剤組成物	2002年11月29日	特許第4251534号、(2009年1月30日)						
		渡辺 啓、野田 章						
39. 洗浄剤組成物	2000年7月12日	特許第3684144号、(2005年6月3日)						
		渡辺 啓、梁木 利男						
40.油中水型乳化組成物及びこれを用いた乳化化粧料	1999年9月24日	特許第3679955号、(2005年5月20日)						
		佐藤 知子、渡辺 啓、松崎 文昭、梁木 利男						
41. 可溶化組成物	1999年4月28日	特許第4700150号、(2011年3月11日)						
		渡辺 啓、矢島 勲、春沢 文則、梁木 利男						
42.メーキャップ除去用化粧料	1999年3月4日	特許第4642950号、(2010年12月10日)						
		渡辺 啓、松崎 文昭、梁木 利男、中村 和吉、藤						
		井 奈津子						
43.メーキャップ除去用化粧料	1999年3月4日	特許第4570705号、(2010年8月20日)						
10.7 1177 10.000	1000   0)312	渡辺 啓、松崎 文昭、梁木 利男、中村 和吉、藤						
		井 奈津子						
   44.乳化組成物	1996年6月28日	特許第4226073号、(2008年12月5日)						
44. 孔化规模型	1990年0月20日							
	1000 100 1100 11	渡辺 啓、鹿子木 宏之、伊藤 建三						
45. 水中油型乳化組成物	1996年3月23日	特許第3853868号、(2006年9月15日)						
		渡辺 啓、鹿子木 宏之、伊藤 建三						
46. 高分子可溶化剤	1995年2月24日出願日	特許第3449660号、(登録日:2003年7月11日)						
		小山 義之、渡辺 啓、西山 聖二						
3 実務の経験を有する者についての特記事項	1							
4 その他	1							
1.第11回M-COSMIC市民講座の開催	2023年11月25日	演題:打つおい美人の秘訣 -肌と水分の関わりー						
		講師:平尾哲二 武庫川女子大学特任教授						
2.第10回M-COSMIC市民講座の開催	2023年10月21日	演題:「韓国コスメ」はどうしてそんなに人気なの?						
		講師:神栄美穂 武庫川女子大学経営学部准教授						
3.第9回M-COSMIC市民講座の開催	2023年9月9日	演題:その習慣がたるみの引き金に 一たるみ小顔ケ						
		アー						
		  講師:谷都美子   武庫川女子大学客員教授						
4.第8回M-COSMIC市民講座の開催	2023年7月22日	演題:におい対策は夏のエチケット ーにおい発生メ						
The Committee of the Sadding and Note the	- 1 -/4	カニズムと対処法一						
		講師:神田不二宏 武庫川女子大学客員教授						
5.第7回M-COSMIC市民講座の開催	2023年6月17日	演題:自分に合った化粧品の選び方・使い方 ースキ						
3. 另7回加 000m10印以神座00m性	2023年0月17日	ンケアからメイクアップ化粧品まで一						
		講師:菅沼薫 武庫川女子大学客員教授						
	0000 85 1100 11							
6.第6回M-COSMIC市民講座の開催	2023年5月20日	演題:化粧品を安全に使うために - 化粧品の正しい						
		取り扱い方一						
		講師:南野美紀 武庫川女子大学客員教授						
7.日経産業新聞掲載「メーク落とし、油分の吸着量10	2021年8月31日掲載	特殊な網目状(スポンジ)構造が実現する超低界面張						
倍 資生堂 液の分子構造改良」		力とその応用に関しレクチャー付き取材対応を実施						
8. 化学工業日報掲載「90%超の抱水性確認 スキンケア	2008年12月3日掲載	高性能スキンケアクリームに関しレクチャー付き取材						
応用へ」		対応を実施						
9. 化学工業日報掲載「美の追求 資生堂 洗浄力と良	2002年9月25日掲載	レクチャー付き取材対応を実施						
好なすすぎ両立」								
10. 化学工業日報掲載「花開くエマルション技術 資生	2002年9月24日掲載	  特殊な条件で生成する会合体を化粧品に活用すること						
堂 洗浄力、サッパリ感両立」	. ,	に関しレクチャー付き取材対応を実施						
11. 化学工業日報掲載「資生堂 化粧品ガラスびん洗浄	2002年9月12日掲載	レクチャー付き取材対応を実施						
剤の外販検討」		- 2 2 1 14 C-1X-14 74 1/10 C X/10						
月1/27717月21777 日11 1	1							

職務上の実績に関する事項								
事項	年月日	概要						
4 その他								
12. 日経産業新聞掲載「資生堂 化粧品瓶用の高性能洗	2002年4月26日掲載	化粧品瓶のリサイクル工程で使用する高性能洗浄剤に						
净剤」		関してレクチャー付き取材対応を実施						

	77V -FF-	<b>367</b>	研究業績等に関	目する事項 T
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
1 著書	11.	9099年10日	却人妻よ	选为 市 苯吡胺沙 军止唐 专用户4407.1×
1. 洗浄の事典	共	2022年10月	朝倉書店	渡辺 啓、荒牧賢治、酒井健一、高田定樹ほか 1. 洗浄の基礎科学 1-29 マイクロエマルション(単著) pp. 66- 67
2. 泡の生成・消泡の基 礎と産業利用	共	2022年9月	シーエムシー出版	5. 洗浄の実際 5-12 メイク落とし (単著) pp. 354-355 大矢 勝 編 渡辺 啓、矢田詩歩、野々村美宗、鎌田美穂ほか 第8章 産業利用の実際 4. バイコンティニュアスマイクロエマル ション泡沫によるメイク落とし (単著) 吉村 倫一 編
3.化粧品科学へのいざ	共	2022年4月	薬事日報社	pp. 194 - 202  渡辺 啓、坂井 隆也、南野 美紀、神田 不二宏、山下 祐司ほ
ない 第5巻 化粧品 そぞろ歩き			7. F 1KIL	か、第1章 スキンケア化粧品(単著)、スキンケア化粧品の製剤技術について概説し最新の研究事例を述べた、pp. 15-46
4. 現代界面コロイド化 学の基礎 第4版	共	2018年4月	日本化学会	三宅 深雪、山内 仁史、渡辺 啓、三輪 哲也、持田 祐希ほか、2章 界面活性剤ー構造、物性、機能 2.3 洗浄剤 2.3.4 マイクロエマルション型洗浄剤(単著)、洗浄剤の性能向上の方法を会合体制御の観点から述べた、pp.71-73
5. Cosmetic Science and Technology: Theoretical Principles and Applications	共	2017年4月	Elsevier	Toshio Iwata, Reiji Miyahara, Kei Watanabe, Tetsuji Hirao, and others, Chapter 32 Skincare Cosmetics (単著)、ナノエマルション、会合体などの最新製剤技術について述べた、pp. 551-560
6. 界面活性剤評価・試 験法 第2版	共	2015年3月	日本油化学会	坂井 隆也、北本 大、渡辺 啓、田嶋 和夫ほか、第3章 4節 乳化・可溶化(単著)、界面活性剤と乳化物、可溶化物の特徴の関 係について述べた、pp. 209-215
7. 超分子サイエンス 〜基礎からイノベー ションまで〜	共	2009年5月	エヌ・ティ・エス	秋吉 一成、坂本 一民、清水 敏美、鍋島 達弥、渡辺 啓ほか、第5章 材料への展開、2節 香粧品への応用、1.バイコンティニュアス相の物性と化粧品への応用、界面活性剤のHLB制御による特異な会合体形成とその化粧品への活用事例を述べた
8. 界面と界面活性剤 - 基礎から応用まで- (第2版)	共	2009年3月	日本油化学会	田嶋 和夫、坂本 一民、渡辺 啓、牧野 公子ほか、第8章 乳 化、8.3 エマルションの調製(共著)、pp. 204-210
9. 最新・化粧品の機能 創製・素材開発・応 用技術		2007年8月	エヌ・ティ・エス	鈴木 敏幸、福井 寛、高木 和行、渡辺 啓、坂本 一民ほか、 第3編 最新技術編、第4章、バイコンティニュアス相を利用した メーク落とし(単著)、水と油の特殊な混合状態を概説し洗浄剤と しての機能性について述べた、pp. 274-272
10. 化粧品大全 ~各工 程における留意点・ ノウハウ集~	共	2006年7月	情報機構	堀内 照夫、兼井 典子、金田 勇、渡辺 啓、柴田 雅史ほか、 第5章乳化技術、第2節 エマルションの調製法の実際(単著)、化粧 品製造における失敗事例や改善のコツについて実例を踏まえて示し た、pp. 183-196
11.新しい分散・乳化の 科学と応用技術の新 展開	共	2006年6月	テクノシステムズ	高木 和行、渡辺 啓、関根 知子、小川 晃弘、石井 文由ほか、第3章 産業別の分散・乳化の応用技術、第1節 化粧品、1-1スキンケア化粧品(単著)、pp. 431-433、第Ⅱ編 分散・乳化の応用技術、第2章 乳化の応用技術、第1節 乳化技術の実際(単著)、スキンケア化粧品に用いられる製剤技術を概説した、pp. 409-412
12. 界面と界面活性剤 - 基礎から応用まで- (第1版)	共	2005年4月	日本油化学会	國枝 博信、河合 武司、酒井 秀樹、野々村 美宗、渡辺 啓ほか、第7章 乳化、7.3 エマルションの調製(単著)、会合体や低界面張力を用いて水と油の混合状態を制御し安定化する方法について述べた、pp. 216-221
2 学位論文	l nz	0000	my m t t w t w	LIMBIERARE AL SIA
1. マイクロエマルショ ンの物性・構造制御 と化粧品への応用に	単	2008年3月	横浜国立大学大学 院工学研究科	水と油が大量に相互溶解して生成するマイクロエマルション (ME)は 透明な外観、低界面張力などの機能性を有する。本論文では基質へ の拡張性が高く皮膚、毛髪表面の保護性に優れたシリコーンをMEに

	研究業績等に関する事項								
著書、学術論文等の名称	単著・	発行又は	発行所、発表雑誌等	概要					
	共著書別	発表の年月	又は学会等の名称	1710.2					
2 学位論文 関する研究				調製する方法について検討し、HLB(親水性一親油性バランス)および界面活性剤と油相の相互溶解度を制御することにより、水油比が1:1にも達するMEが生成することを明らかにした。さらにバイコンティニュアス相およびキュービック相と呼ばれる会合体に調製する					
3 学術論文				ことで低粘度および高粘度のMEを生成させる方法を明らかにした。					
1. Novel O/W Emulsions by Utilizing a Vesicle/Disc Transformation of Polyether Modified Silicone (査読付	共	2023年7月	J. Oleo Sci., 72 (7), 693-708, (2023)	Kei Watanabe, Hidehito Munakata, Kento Ueno, Haruhiko Inoue, Makoto Uyama, Yohei Takahashi, Koji Tsuchiya, Kenichi Sakai, and Hideki Sakai					
き) 2.ポリエーテル変性シ リコーンのベシクル /ディスク構造転移 を利用した0/W乳化	単	2023年1月	オレオサイエン ス、第23巻、第1 号、17-27、 (2023)	渡辺啓 ベシクルが油水界面においてディスク形状へ変化することを利用した効率の良い新規な乳化系について解説					
3. 水ベースでメイクを 落とすことは可能な のか? ~新規スポン ジ構造会合体による 水系高洗浄力メイク 落とし~(査読付)	共	2022年9月	J. Soc. Cosmet. Chem. Jpn., 56, 262-270 (2022)	渡辺 啓、渡邊 由樹、張 陽、増田 収希、松本 千景、島 孝 明、齋藤 直輝					
4.Key factor of sponge phase formation in commercial polyethoxylated nonionic surfactant/ cosurfactant/ water systems and its unique feature at interface (查読 付)	共	2022年5月	Colloids Surf. A Physicochem. Eng. Asp., 641 (2022) 128405	ポリエチレンオキサイド型非イオン界面活性剤によるスポンジ相生成のキーファクターと界面におけるユニークな特性 Kei Watanabe, Yuki Watanabe, Kazuki Masuda, Zhang Yang, Ami Kaneshima, Akira Motoyama, Takaaki Shima, Koji Tsuchiya, Hideki Sakai					
5. Novel Spontaneous Cleansing Feature of Foam - Hybrid Bicontinuous Microemulsion Type Foamy Makeup Remover - (査読付)	共	2021年3月	J. Soc. Cosmet. Chem. Jpn., 55, (1) 19-27 (2021)	泡による新規な自発的洗浄現象 -バイブリッドバイコンティニュアスマイクロエマルション型泡状メイク落とし Kei Watanabe, Namiko Sakurai, Takashi Meno, Chihiro Yasuda, Shigeo Takahashi, Ayaka Hori, Koji Tsuchiya, Hideki Sakai					
6. 新規ベシクル/ミセル複合体の相平衡制御による化粧水の高保湿性と心地よい使用感の両立(査読付)	共	2018年12月	J. Soc. Cosmet. Chem. Jpn., 52, (4) 260-268 (2018)	渡辺 啓、西田 美晴、西村 加奈子、宗 頼子、松下 裕史、中村 綾野、土屋 好司、酒井 秀樹、ハインツ ホフマン					
7. Physicochemical Properties of α- Form Hydrated Crystalline Phase of 3-(10- Carboxydecyl)-1,1, 1,3,5,5,5- heptamethyl Trisiloxane/Higher alcohol/Polyoxy	共	2018年7月	J. 01eo Sci., 67, (7) 839-849 (2018)	シリコーン界面活性剤/アルキル界面活性剤が形成するα型結晶の物理化学的特性 Makoto Uyama, Hidefumi Araki, Tadao Fukuhara, Kei Watanabe					

			研究業績等に関	関する事項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
Ethylene (5 mol) Glyceryl monostearate/Water				
System(査読付) 8. 有機変性粘度鉱物を 用いたW/O乳化製 剤の調製方法とスキ ンケア製剤への活用 (査読付)	共	2013年3月	J. Soc. Cosmet. Chem. Jpn., 47 (1) 19-25 (2013)	佐々木 一貴、北島 正樹、西居 加奈、関根 知子、渡辺 啓、 大村 孝之
9. The viscosity stability of 0/W emulsion containing α-gel through an ionic- complex system (査 読付)	共	2013年1月	J. Oleo Sci., 62, (1) 9-16 (2013)	Makoto Uyama, Kaori Ikuta, Takashi Teshigawara, Kei Watanabe, Reiji Miyahara
10. 界面活性剤の相平衡 制御によるクレンジ ングオイルの高性 能・高機能化(査読 付)	共	2012年12月	J. Soc. Cosmet. Chem. Jpn., 46 (4), 287-294 (2012)	渡辺 啓、松尾 玲、井上 裕基、安達 謙太郎、野田 章
ll.Hydrogels from diacylphosphatidyl choline (査読付)	共	2012年11月	Colloid Polym. Sci., 290, 91–95 (2012)	ジアシルフォスファチジルコリンによる水性ゲル Keisuke Shinto, Heinz Hoffmann, Kei Watanabe, Takashi Teshigawara
12. α-Gel Prepared in Sodium Methyl Stearoyl Taurate/ Behenyl Alcohol/ Water System - Characterization of Structural Changes with Water Concentration (查 読付)	共	2012年1月	J. Oleo Sci., 61, (1) 29-34 (2012)	ステアロイルメチルタウチンナトリウム/ベヘニルアルコール/水系におけるαゲル調製 -水濃度変化に伴う構造変化のキャラクタリゼーション Kei Watanabe, Haruhiko Inoue, Takashi Teshigawara, Tomoko Kimura
13.Pickering emulsions stabilized by novel clay- hydrophobin synergism (査読付)	共	2011年11月	Soft Matter, 7, (22) 11021 (2011)	粘度鉱物とハイドロフォビンの相互作用により安定化されたピッカ リングエマルション Martin Reger, Tomoko Sekine, Tohru Okamoto, Kei Watanabe, Heinz Hoffmann
14. Influence of Surfactant Hydrophilicity on the Formation of Transparent 0/Il- Type Emulsions (査 読付)	共	2011年8月	J. Oleo Sci., 60, (8) 403-409 (2011)	油/キュービック液晶型乳化物の透明性に及ぼす界面活性剤の親水性 の影響 Takuya Takahashi, Yuki Sugiyama, Kei Watanabe, and Kenji Aramaki
15.Microemulsions from silicone oil with an anionic/ nonionic surfactant mixture (査読付)	共	2011年1月	Phys. Chem. Chem. Phys., 13, (8) 3248-3256 (2011)	アニオン/非イオン界面活性剤混合物によるシリコーン油のマイクロ エマルション Lukas Wolf, Heinz Hoffmann, Kei Watanabe, Tohru Okamoto
16.Cryo-TEM imaging of a novel microemulsion system of silicone oil with an anionic/nonionic	共	2010年9月	Soft Matter, 6, (21) 5367-5374 (2010)	アニオン/非イオン界面活性剤混合物によるシリコーン油のマイクロエマルションの凍結TEMイメージング Lukas Wolf, Heinz Hoffmann, Yeshayahu Talmon, Takashi Teshigawara, Kei Watanabe

研究業績等に関する事項								
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要				
3 学術論文								
surfactant mixture								
(査読付)								
17. Phase behavior and	共	2010年1月	J. Colloid and	非イオン界面活性剤による油を可溶化したマイセラーキュービック				
rheology of oil-			Interface Sci.,	液晶相の相挙動およびレオロジー挙動				
swollen micellar			341, (2) 267-272	Mohammad Mydul Alam, Yuki Sugiyama, Kei Watanabe, Kenji				
cubic phase and			(2010)	Aramaki				
gel emulsions in nonionic								
surfactant systems								
(査読付)								
18.W/0乳化技術の最近の	単	2009年11月	フレグランス	渡辺 啓				
進歩 一会合体制御	'	2000   11/3	ジャーナル、11月					
技術を用いた超高内			号、28-33 (2009)					
相比乳化一								
19. バイコンティニュア	共	2009年9月	J. Soc. Cosmet.	渡辺 啓、大村 孝之、池田 智子、三木 絢子、勅使河原 喬史				
スキュービック液晶			Chem. Jpn., 43,					
を形成する界面活性			(3) 185-191					
剤による高内相比W			(2009)					
/O乳化(査読付)								
20. Development of	共	2008年10月	J. Oleo Sci.,	ステロール界面活性剤を用いた新規な化粧品基剤 1.新規な乳化粒				
novel cosmetic			57, (10) 567-575	子調製 The shi Olean Deliii Misselena Tahashi Tashi samana Vai				
base using sterol surfactant. I.			(2008)	Takashi Oka, Reiji Miyahara, Takashi Teshigawara, Kei Watanabe				
Preparation of				watanabe				
novel emulsified								
particles with								
sterol surfactant								
(査読付)								
21.イオン性界面活性剤	単	2008年7月	オレオサイエン	渡辺 啓				
のHLB制御による環境			ス、第8巻、第7					
対応型マイクロエマ			号、285-291					
ルション洗浄剤の開			(2008)					
発	224	2007/5/4 日	コルガニンク	\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\				
22. 界面活性剤の相平衡 制御によるクレンジ	単	2007年4月	フレグランス ジャーナル、4月	渡辺 啓				
ングオイルの高性			号、65-70(2007)					
能・高機能化			75, 00 10 (2001)					
23. Development of	共	2006年9月	J. Oleo Sci.,	多機能化粧品原料の開発と応用 3. 非イオン界面活性剤会合体へ				
Novel			55, (9) 473-482	のランダムコポリマーの影響				
Multifunctional			(2006)	Reiji Miyahara, Kei Watanabe, Takashi Ohmori, Yasunari				
Cosmetic Raw				Nakama				
Materials and								
Their								
Applications. III.								
Effect of Random								
Copolymer of								
Polyoxyethylene /								
polyoxypropylene on Self-organizing								
Structures of								
Nonionic								
Surfactants(査読								
付)								
24. Development of	共	2006年8月	J. Oleo Sci.,	多機能化粧品原料の開発と応用 2. ポリオキシエチレン/ポリオキ				
Novel			55, (8) 403-411	シプロピレンランダムコポリマーを用いた新規乳化法				
Multifunctional			(2006)	Reiji Miyahara, Kei Watanabe, Takashi Ohmori, Yasunari				
Cosmetic Raw				Nakama				
Materials and								
Their		<u> </u>						

			研究業績等に関	<b>見する事項</b>
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
3 学術論文	八百百加	九叔切干月	人的十五十四十四	
Applications. II.				
Novel Emulsifying				
Method with Random				
Copolymer of				
Polyoxyethylene /				
Polyoxypropylene				
(査読付)				
25.界面活性剤の特異な	単	2006年8月	工業材料、第54	渡辺 啓
会合状態[バイコン			巻、第8号、44-47	
ティニュアス相〕の			(2006)	
物性と応用				
26.メーク落としと界面	単	2006年2月	化学と教育、第54	渡辺 啓
活性剤の科学			巻、第2号、88-89	
			(2006)	NO.
27. 界面活性剤会合体の	単	2005年12月	日本化学会コロイ	渡辺 啓
調製とその特性を生			ドおよび界面化学	
かした洗浄剤への応			部会ニュースレ	
用に関する研究			ター、第30巻、第 4号、12-14	
			(2005)	
   28.シリコーン油を含む	単	2005年3月	オレオサイエン	渡辺 啓
マイクロエマルショ		20000)1	ス、第5巻、第3	1)XX2 G
ンの調製と洗浄剤へ			号、109-118	
の応用			(2005)	
29. Bicontinuous	共	2004年11月	J. Oleo Sci.,	シリコーン油を含むバイコンティニュアスマイクロエマルション型
Microemulsion Type			53, (11) 547-555	洗浄剤 2. 溶液のキャラクタリゼーションと洗浄剤への応用
Cleansing			(2004)	Kei Watanabe, Akira Noda, Masahiko Masuda, Kazuyoshi
Containing				Nakamura
Silicone Oil II -				
Characterization				
of the Solution				
and Its				
Application to				
Cleansing Agent -				
(査読付)	.,	00015115		
30.Bicontinuous	共	2004年11月	J. Oleo Sci.,	シリコーン油を含むバイコンティニュアスマイクロエマルション型
Microemulsion Type			53, (11) 537-546	洗浄剤 1.環状シリコーンの溶存挙動の極性油との比較
Cleansing Containing			(2004)	Kei Watanabe, Akira Noda, Masahiko Masuda, Tomoko Kimura, Kazuo Komatsu, Kazuyoshi Nakamura
Silicone Oil I -				kazuo komatsu, kazuyosiii nakamura
Comparison of				
Solubilization				
Behavior of Cyclic				
Siloxane with				
Polar oil (査読付)				
31. New Make-up	共	2004年4月	IFSCC Magazine,	シリコーン油と水の2種類の連続的なチャネルから構成される系(バ
Remover Prepared			7, (4) 309-318	イコンティニュアスマイクロエマルション)による新規メイク落と
with a System			(2004)	L
Comprising Dual				Kei Watanabe, Masahiko Masuda, Kazuyoshi Nakamura, Tomoyuki
Continuous				Inaba, Akira Noda, Takeshi Yanagida, Toshio Yanaki
Channels (Bi-				
continuous Phase)				
of Silicone Oil				
and Water (査読付)	.,			
32. Cubic Phase	共	2004年3月	Langmuir, 20,	アニオン性/両性界面活性剤/オレイン酸/デカン/水系で生成する
Prepared in			(7) 2607-2613	キュービック相の近接相との関係
Anionic /			(2004)	Kei Watanabe, Yasunari Nakama, Toshio Yanaki, Cristine
Amphoteric Surfactant / Oleic				Thunig, Klaus Horbachek, Heinz Hoffmann
burractant / Oferc	<u> </u>	<u> </u>	1	

			研究業績等に関	<b>貴する事項</b>
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
Acid / Decane / Water System and the Relationship with the Neighboring Phase (査読付)				
33.Dye Method to Identify the Types of Cubic Phases (査読付)	共	2003年8月	J. 01eo Sci., 52, (8) 429-432 (2003)	キュービック相のサブタイプの色素法による同定 Hironobu Kunieda, Kenji Aramaki, Teruki Izawa, Md Hamidul Kabir, Kazutami Sakamoto, Kei Watanabe
34.Novel Vesicle and Sponge Phase Prepared in Amphoteric Surfactant / Anionic Surfactant / Oleic Acid / Water System (査読	共	2001年10月	Langmuir, 17, (23) 7219-7224 (2001)	アニオン性/両性界面活性剤/オレイン酸/水系で生成する新規なスポンジ相とベシクル相 Kei Watanabe, Yasunari Nakama, Toshio Yanaki, Heinz Hoffmann
35. Synthesis of Novel Poly (ethylene glycol) Derivatives Having Pendant Amino Groups and Aggregating Behavior of Its Mixture with Fatty Acid in Water (查	共	1996年5月	Bioconjugate Chemistry, 7, (3) 298-301 (1996)	アミノ酸部位を有する新規ポリエチレングリコール誘導体の合成と 脂肪酸混合による会合挙動 Yoshiyuki Koyama, M. Umehara, A. Mizuno, M. Itaba, T. Yasukouchi, K. Natsume, A. Suginaka, Kei Watanabe
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
1. 相平衡図を用いた化粧品の価値づくり	単	2022年11月	日本油化学会 界 面科学実践講座 2022、東京	渡辺 啓
2. 可溶化とマイクロエ マルション	単	2022年10月	日本油化学会第 2 3 回 フレッシュマンセ ミナー、東京	渡辺 啓
3. Development of sustainable emulsions with a natural polymer microgel	単	2022年9月	JOCS-AOCS Joint Meeting Invited Lecture (Surfactant, Detergent, and Interface Science), Virtual	Kei Watanabe
4. Novel spontaneous cleansing feature of foam -Hybrid bicontinuous-microemulsion-type foamy makeup remover-	共	2022年8月	油脂工業会館第2 3回油脂優秀論文 受賞講演会、Web開 催	渡辺 啓,目野 高嗣,櫻井 菜海子
5.Novel spontaneous cleansing feature of foam -Hybrid bicontinuous- microemulsion-type	共	2022年7月	第88回SCCJ研究討 論会 第23回SCCJ優秀論 文賞受賞講演会、 Web開催	渡辺 啓、目野 高嗣、高橋 繁郎、櫻井 菜海子、安田 千裕、堀 文香、土屋 好司、酒井 秀樹

研究業績等に関する事項							
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要			
1. 学会ゲストスピーカー	•						
foamy makeup							
remover- 6.Novel Spontaneous Cleansing Feature	共	2022年7月	日本化粧品技術者 会第23回SCCJ 最優	泡による新規な自発的洗浄現象 - バイブリッドバイコンティニュ アスマイクロエマルション型泡状メイク落とし			
of Foam - Hybrid Bicontinuous Microemulsion Type Foamy Makeup			秀論文賞受賞講演 会Web開催	Kei Watanabe, Namiko Sakurai, Takashi Meno, Chihiro Yasuda, Shigeo Takahashi, Ayaka Hori, Koji Tsuchiya, Hideki Sakai			
Remover 7. 新規ベシクル/ミセル 複合体の相平衡制御 による化粧水開発と	単	2021年11月	日本化学会第24回コロイド界面技術者フォーラム、	渡辺 啓			
他美類への展開 8. マイクロエマルショ	単	2021年11月	Web開催 日本油化学会第22	渡辺 啓			
ンとその応用			回フレッシュマン セミナー、Web開催				
9. 相平衡図を用いた乳 化化粧品の価値作り	単	2021年10月	日本油化学会油化 学界面実践講座 2021、Web開催	渡辺 啓			
10.相平衡図を用いた化 粧品の価値づくり	単	2020年11月	第59油化学年会 界面科学特別講演、Web開催	渡辺 啓			
11.マイクロエマルショ ン型クレンジングの 進歩とクレンジング の未来 ~リキッド から泡立つメイク落 としへ、そして未来 を考える~	単	2019年12月	2019年度材料技術 研究協会討論会特 別講演、東京	渡辺 啓			
12. バイコンティニュア スマイクロエマル ション型クレンジン グの進歩 〜リキッ ドから泡立つメイク 落としまで〜	単	2019年10月	第66回日本油化学 会界面科学部会 秋 季セミナー、横須 賀	渡辺 啓			
13. Novel Fascinating Feature of foam - Foam Type Hybrid Bicontinuous Microemulsion Makeup Remover-	単	2019年9月	The 8th Asian Conference on Colloid & Interface Science, Nepal	泡の新規で魅力的な特性 - 泡状ハイブリッドバイコンティニュア スマイクロエマルション型メイク落とし 渡辺 啓			
14. 相平衡図を用いた乳 化・可溶化化粧品の 価値づくり	単	2019年7月	日本油化学会界面 実践講座2019、東 京	渡辺 啓			
15. 新規ベシクル/ミセル 複合体の相平衡制御 による化粧水の高保 湿性と心地よい使用 感の両立	共	2019年7月	日本化粧品技術者 会第20回SCCJ最優 秀論文賞受賞講演 会、大阪	渡辺 啓、西田 美晴、松下 裕史、宗 頼子、西村 加奈子、中村 綾野、土屋 好司、酒井 秀樹、ハインツ ホフマン			
16. 可溶化とマイクロエ マルション	単	2019年6月	日本油化学会第20 回フレッシュマン セミナー、東京	渡辺 啓			
17.乳化・可溶化・洗浄 剤処方設計における 相平衡図の読み方・ 使い方	単	2019年1月	日本化学会第36回 コロイド技術シン ポジウム、東京	渡辺 啓			
18. 相平衡制御による化 粧品の新しい価値創 出	単	2018年9月	日本化学会コロイ ドおよび界面化学 部会九州支部第34	渡辺 啓			

	研究業績等に関する事項							
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称			概要	į	
1. 学会ゲストスピーカー								
			回九州コロイドコ					
			ロキウム、広島					
19. 相平衡図を用いた乳	単	2018年7月	日本油化学会界面	渡辺	啓			
化・可溶化化粧品の			実践講座2018、東					
価値づくり 20.スキンケア化粧品	単	2018年6月	京日本化粧品技術者	渡辺	砂			
20. ハインケア114年間	<del>"</del>	2010年0月	会東京支部第50回	仮足	台			
			化粧品技術基礎講					
			座、東京					
21.可溶化とマイクロエ	単	2018年6月	日本油化学会第19	渡辺	啓			
マルション			回フレッシュマン					
			セミナー、東京					
22.乳化・分散の理論	単	2018年3月	日本化学工学会乳	渡辺	啓			
			化・分散プロセス 設計講座、東京					
23.乳化・可溶化・洗浄	単	2018年1月	日本化学会第35回	渡辺	改			
剤処方設計における		2010   1)3	コロイド技術シン	1/2/2	н			
相平衡図の読み方・			ポジウム、東京					
使い方								
24. クレンジングオイ	単	2017年11月	日本油化学会第59	渡辺	啓			
ル・リキッドの相平			回関西油化学講習					
衡による機能・感性 価値の両立			会、大阪					
25.相平衡図を用いた乳	単	2017年7月	日本油化学会界面	渡辺	啓			
化・可溶化化粧品の	'	2011   173	実践講座2017、東	1/2/2	н			
価値づくり			京					
26.スキンケア化粧品	単	2017年6月	日本化粧品技術者	渡辺	啓			
			会東京支部第49回					
			化粧品技術基礎講					
27. 乳化・可溶化・洗浄	単	2017年1月	座、東京 日本化学会第34回	渡辺	政			
利処方設計における	<del>"</del>	2017年1月	コロイド技術シン	仮足	台			
相平衡図の読み方・			ポジウム、東京					
使い方								
28.マイクロエマルジョ	単	2016年12月	大阪工研協会 香	渡辺	啓			
ンで何ができる?~			粧品セミナー 、大					
その物性と応用~		0010 11 11	阪	\rhe\-	≅k			
29.乳化・可溶化の評価 試験法と応用	単	2016年11月	日本油化学会第14 回界面活性剤評	渡辺	啓			
[八河大八二 ](八八			価・試験法セミ					
			ナー、東京					
30.マイクロエマルショ	単	2016年9月	日本油化学会第55	渡辺	啓			
ンの相平衡制御によ			回年会界面科学部					
る化粧品の価値創出			会シンポジウム、					
91 フキンケマル蛤口	出	2016年6月	奈良	海江	砂			
31. スキンケア化粧品	単	2010年0月	日本化粧品技術者 会東京支部第48回	渡辺	谷			
			化粧品技術基礎講					
			座、東京					
32. クレンジングオイ	単	2016年2月	日本化粧品技術者	渡辺	啓			
ル・リキッドの相平			会第47回SCCJセミ					
衡制御による機能・ 感性 無徳の声音			ナー、東京					
感性価値の両立 33.マイクロエマルショ	単	2016年1月	日本化学会第33回	渡辺	啓			
ンを制御して化粧品		2010-17	コロイド技術シン	1/2/2				
の価値をつくる			ポジウム、東京					
34.乳化・可溶化の評価	単	2015年11月	日本油化学会第13	渡辺	啓			
試験法と応用			回界面活性剤評					
,			価・試験法セミ					

研究業績等に関する事項						
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要		
1. 学会ゲストスピーカー	-	!				
35. High Internal Phase W/O Emulsion Stabilized with a Surfactant that Forms an Anomalous Bicontinuous Cubic Liquid Crystalline Phase	単	2015年7月	ナー、東京 Post Conference of International Conference of Colloids and Interface Science, Taichung	特異なバイコンティニュアスキュービック液晶を形成する界面活性 剤による高内相W/0乳化 渡辺 啓		
36. スキンケア化粧品	単	2015年6月	日本化粧品技術者 会東京支部第47回 化粧品技術基礎講 座、東京	渡辺 啓		
37.乳化・可溶化の評価 試験法と応用	単	2014年11月	日本油化学会第12 回界面活性剤評 価・試験法セミ ナー、東京	渡辺 啓		
38. 界面活性剤の相平衡 と化粧品への応用	単	2014年9月	・ 色材協会コロイド 化学セミナー、東京	渡辺 啓		
39.乳化・可溶化の評価 試験法と応用	単	2013年11月	日本油化学会第11 回界面活性剤評 価・試験法セミ ナー、東京	渡辺 啓		
40.界面活性剤の相平衡 と化粧品への応用	単	2013年8月	色材協会コロイド 化学セミナー、東京	渡辺 啓		
41.乳化・可溶化の評価 試験法と応用	単	2012年11月	日本油化学会第10 回界面活性剤評 価・試験法セミ ナー、東京	渡辺 啓		
42. 界面活性剤の相平衡 と化粧品への応用	単	2012年6月	色材協会コロイド 化学セミナー、東 京	渡辺 啓		
43. 可溶化とマイクロエ マルション	単	2012年6月	日本油化学会第13 回フレッシュマン セミナー、東京	渡辺 啓		
44.乳化・可溶化の評価 試験法と応用	単	2011年11月	日本油化学会第9回 界面活性剤評価・ 試験法セミナー、 東京	渡辺 啓		
45. バイコンティニュア スキュービック液晶 を形成する界面活性 剤による高内相比W/ 0乳化	共	2011年7月	日本化粧品技術者 会第16回SCCJ論文 賞受賞講演会、大 阪	渡辺 啓、大村 孝之、池田 智子、三木 絢子、勅使河原 喬史		
46. 可溶化とマイクロエマルション	単	2011年6月	日本油化学会第12 回フレッシュマン セミナー、東京	渡辺 啓		
47.わかる!使える!相 平衡図の読み方	単	2011年1月	日本化学会第28回コロイド技術シンポジウム、東京	渡辺 啓		
48.乳化・可溶化の評価 試験法と応用	単	2010年11月	日本油化学会第8回 界面活性剤評価・ 試験法セミナー、 東京	渡辺 啓		
49. 可溶化とマイクロエ マルション	単	2010年6月	日本油化学会第11回フレッシュマンセミナー、東京	渡辺 啓		

研究業績等に関する事項												
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称						概要			
 1.学会ゲストスピーカー	7.1124	7021 177	71.0 3 11.3 11.0									
50.メーク落としと界面	単	2009年12月	繊維応用技術研究	渡辺	啓							
活性剤の科学			会、大阪									
51.乳化・可溶化の評価	単	2009年11月	日本油化学会第7回	渡辺	啓							
試験法と応用			界面活性剤評価・									
			試験法セミナー、									
			東京									
52. 界面活性剤の相平衡	単	2009年2月	材料技術研究協会	渡辺	啓							
と化粧品への応用 53.乳化・可溶化の評価	単	2008年11月	セミナー、東京 日本油化学会第6回	渡辺	政							
試験法と応用	<del>"</del>	2000年11月	界面活性剤評価・	仮足	首							
PAMXIA C //LI/11			試験法セミナー、									
			東京									
54. 化粧品・洗浄剤の高機	単	2007年11月	第54回界面科学部	渡辺	啓							
能化を目指したエマ			会秋季セミナー、									
ルション技術の進化			箱根									
55.洗浄剤と界面活性剤	単	2007年11月	日本油化学会東海	渡辺	啓							
の科学 -新規オイル			支部、油化学講演									
タイプメーク落と			会、静岡									
し・ガラス瓶のリサ												
イクル用洗浄剤の開												
発 56. 界面活性剤の相平衡	単	2006年12月	神奈川技術アカデ	渡辺	政							
制御によるメーク落	7	2000年12月	ミーKAST教育講	仮起	<b>'</b>							
としの高機能化			座、川崎									
57.シリコーン油を含む	共	2006年9月	日本油化学会年会	渡辺	啓、	増田	政彦	中村	和吉			
自己組織体の研究と			2005年度油脂技術	1,2,7	_,		-,,,,,					
洗浄剤への応用			論文賞受賞講演、									
			野田									
58. 界面活性剤多成分溶	単	2006年5月	日本化学会第22回	渡辺	啓							
液系における相図の			現代コロイド・界									
見方とその応用			面化学基礎講座、									
[0] 用云还处刻人人从内	244	2005 50 11	東京日本化学会コロイ	2006 777	≓kr							
59. 界面活性剤会合体の 調製とその特性を生	単	2005年9月	ドおよび界面化学	渡辺	谷							
かした応用に関する			部会技術奨励賞受									
研究			賞講演、宇都宮									
60.メーク落としの高性	単	2005年8月	第112回フレグラン	渡辺	啓							
能化を目指したバイ			スジャーナルセミ									
コンティニュアス相			ナー、東京									
の調製と応用												
61. 界面活性剤多成分溶	単	2005年5月	日本化学会第21回	渡辺	啓							
液系における相図の			現代コロイド・界									
見方とその応用			面化学基礎講座、									
62. 界面活性剤多成分溶	単	2004年5月	東京 日本化学会第20回	渡辺	政							
02. 芥山石性角多成分浴   液系における相図の	于	2004年3月	現代コロイド・界	放起	白							
見方とその応用			面化学基礎講座、									
2-7 744/14			東京									
63. バイコンティニュア	単	2004年2月	日本化粧品技術者	渡辺	啓							
ス相の調製とメーク			会第25回SCCJセミ									
落としへの応用			ナー、横浜									
64. 界面活性剤多成分溶	単	2003年5月	日本化学会第19回	渡辺	啓							
液系における相図の			現代コロイド・界									
見方とその応用			面化学基礎講座、									
2. 学会発表			東京									
2. 子云光衣   1. 化粧水の表面張力の	共	2023年10月	第73回薬学会関西	沼田廿	上羅.	岩隅	由江.	平尾哲	二、渡辺啓	、黒田幸引		
温度依存性に関する		14日	支部大会		- vide /	HIM	-,,	. , в н -	, ,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,		-	
基礎的検討 【しっ												
	+		+									

研究業績等に関する事項							
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要			
2. 学会発表							
とりタイプやさっぱ りタイプの違いの物 性評価】 2.Novel approach to enhance effect of skincare formulas based on interfacial property of vesicles that imitating cell membrane	共	2023年9月4日	33rd Congress of IFSCC	Zhang, Yang; Fujii, Yoshimura, Mika; Uyama, Makoto; Watanabe, Kei			
3. ポリエーテル変性シ リコーンのベシクル /ディスク構造転移 を利用した新規0/W乳 化	共	2022年9月 20日	第73回日本化学会 コロイドおよび界 面化学討論会	渡辺 啓, 宗像 英仁, 上野 堅登, 井上 東彦, 宇山 允人, 髙橋 洋平, 土屋 好司, 酒井 健一, 酒井 秀樹			
4. Nanodisc emulsion: Broadening the horizon of cosmetics. — Unique oil-water interface from dynamic transformation of vesicles into nanodiscs—	共	2021年11月	IFSCC Conference 2021, Cancun, NT-218	Munakata Hidehito; Ueno Kento; Uyama Makoto; Inoue Haruhiko; Saito Naoki; Watanabe Kei			
5. 水ベースでメイクを 落とすことは可能な のか? ~新規スポンジ 構造会合体による水 系洗浄メイク落と し~	共	2021年7月 15日	日本化粧品技術者 会第86回研究討論 会、東京	渡邊由樹、張陽、島孝明、松本千景、増田収希、齋藤直輝、渡辺 啓、土屋好司、酒井秀樹			
6. Novel features of foam - Hybrid foam type bicontinuous microemulsion makeup remover -	共	2019年11月3日	An International Conference on Colloid & Surface Science Celebrating the 70th Anniversary of the Divisional Meeting of Division of Colloid and Surface Science, Okinawa	Kei Watanabe, Takashi Meno, Shigeo Takahashi, Namiko Sakurai, Koji Tsuchiya, Hideki Sakai			
7. Relationship between maximum inner phase ratio of W/O emulsion and self-assembled structure of the outer phase	共	2019年6月19日	The 93rd American Chemical Siciety Colloid & Surface Science Symposium (Atlanta)	Kei Watanabe, Takashi Teshigawara, Yuki Sugiyama, Ayako Miki			
3. 総説   1. 可溶化とマイクロエ   マルション	単	2023年11月	オレオサイエン ス、第23巻、第11 号、584-589	化粧品製剤を構成するうえで重要な熱力学的に平衡な可溶化系について、理論と実際の応用例を解説			
2. 化粧品の α ゲル	単	2016年7月	(2023) オレオサイエン	渡辺 啓			

研究業績等に関する事項						
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要		
3. 総説						
			ス、第16巻、第7号 321-326 (2016)			
3. 界面活性剤講座(第 3講) 乳化、可溶化	単	2016年4月	色材、第89巻、第 4号、135-138 (2016)	渡辺 啓		
4特集- 界面活性剤 (2) 界面活性剤の相 平衡と化粧品への応 用	単	2010年1月	色材、第83巻、第 1号、21-25 (2010)	渡辺 啓		
5.メーク落とし用洗浄 料について ~最近 のクレンジングの進 化~	共	2004年6月	香料、No. 222、 87-96(2004)	増田 政彦、渡辺 啓、担当執筆部分pp.91-96		
4. 芸術(建築模型等含む)・スポーツ分野の業績						
5.報告発表・翻訳・編集・	座談会・記	討論・発表等				
6. 研究費の取得状況						

学会及び社会における活動等						
年月日	事項					
1.2023年5月	日本化粧品技術者会 第24回 2022年度 最優秀論文賞					
2.2023年2月	油脂工業会館 令和4年度 第66回油脂技術優秀論文賞					
3.2022年5月	日本化粧品技術者会 第23回 2021年度 優秀論文賞					
4.2022年2月	油脂工業会館 令和3年度 第65回油脂技術優秀論文賞					
5.2020年2月	油脂工業会館 令和元年度 第63回油脂技術優秀論文賞					
6.2019年5月	日本化粧品技術者会 第20回 2018年度 最優秀論文賞					
7.2018年12月	日本化粧品技術者会 第83回SCCJ討論会 第8回最優秀発表賞					
8.2017年7月	日本化粧品技術者会 第80回SCCJ討論会 第5回最優秀発表賞					
9.2013年4月1日~2015年3月31日	日本化学会 コロイドおよび界面化学部会 賞選考委員					
10.2012年5月	日本化粧品技術者会 第16回 2011年度 最優秀論文賞					
11.2011年4月1日~現在に至る	日本化学会 コロイドおよび界面化学部会 事業企画委員					
12.2010年4月1日~2012年3月31日	日本化学会 コロイドおよび界面化学部会 財務副委員長					
13.2008年4月1日~2014年3月31日	日本油化学会 界面活性剤評価試験法セミナー 実行副委員長					
14.2005年9月	日本化学会 コロイドおよび界面化学部会 平成17年度 第4回技術奨励賞					
15.2005年2月	油脂工業会館 平成16年度 第48回油脂技術優秀論文賞					
16.2002年4月1日~現在に至る	日本油化学会 界面科学部会 幹事					